

・学年/教科	第4学年／社会科・総合科	授業者 栗木 陸行
・事例タイトル	防災マップを作ろう	
<p>・授業の概要 (ねらい)</p> <p>○災害から命を守る方法、地域の避難場所や防災設備について調べて、防災マップを作る (授業展開)</p> <p>1、社会科で事前に災害について学習して、災害や防災についての基礎知識を学ぶ。 2、富田林市の避難所を考え、伏山台小学校がなぜ指定避難場所になっているのか考える 3、震災時の様子を画像、動画などで学び、地震発生時に起こる自分たちが住んでいる地域での被害を予想する。 4、地震が起きた時に、寺池台方面から伏山台小学校までの避難経路を考える。 5、地震が起きた時に、伏山方面から伏山台小学校までの避難経路を考える。 6、自分たちが住んでいる地域の危険箇所、避難場所を Google マップに打ち込み、防災マップを作成する。</p>		
<p>・使用した ICT 機器と機能など、使用した感想など</p> <p>○使用機器 ipad 16 台(各班 2 台) ○使用機能 Google map Appleの Map(Look around)</p>		
<p>・伏山 STEPS との関連</p> <p><input type="checkbox"/>S(スキル) <input checked="" type="checkbox"/>T(ツール) <input checked="" type="checkbox"/>E(エクスプローラー) <input type="checkbox"/>P(プログラミング) <input checked="" type="checkbox"/>S セキュリティー</p>		
<p>・タブレット活用により期待できる効果やねらい</p> <p>○Apple の map(Look around)を使うことによって、自分たちの住む地域の特徴を捉え、災害時における安全な避難経路を予想しやすくなる ○実際の地図を使用しつつ、Apple の map(Look around)を使うことによって、個人・グループ学習・全体交流が行いやすくなる</p>		
<p>・実践の感想、成果、子どもの変容や反応など</p> <p>○実際の地図とタブレット上の地図。2つの地図の位置をつなげて考えることは難しく感じている児童がいた。 ○実際の映像を見ることによって、児童は地域の特徴を捉えやすくなるとともに、その経路の安全性、危険性を考えることができていた。 ○周りの児童に自分の見つけた危険箇所や自分で考えた避難経路を説明する際に、映像を伴って説明を行えるため、グループや全体での話し合いがより活性化していた。</p>		

◆本時までの流れ

「避難防災マップを作ろう」

第1時  
「校区周辺の避難できる場所を考える」

◎自分の考える避難場所

→伏山公園、伏山台小学校、寺池台小学校、錦織公園  
ストリートビューを使いながら、発表を行いました。



◎なぜ、伏山台小学校は指定避難所なのか。

→食料や水などがある・丈夫・みんなが知っている など

第2時①

「地震発生時の校区の被害を考える」

阪神淡路大震災が起きた時の動画を見て、  
災害時の様子を学習しました。  
その後、個人→班→全体で交流します。



第2時②

「地震発生時の校区の被害を考える」

◎班や全体で共有する時は、  
Look aroundを使いながら話し合います。

映像を使うことで、

その地区に馴染みが少ない児童にも  
共有することができました。



第3・4時

「地震が起きたときの避難経路を考える」  
(寺池方面)

◎金剛駅付近から、  
実際に避難する方法を考えます。  
前時までに考えた危険箇所をふまえて、  
避難ルートを考え、どのルートが  
一番適しているのか話し合いました。



第3・4時

「地震が起きたときの避難経路を考える」  
(寺池方面)

◎どのような道を選べばよいか  
→安全なルート、危険の少ないルート

◎安全な道とは?→道が広い、近い道、わかりやすい

◎危険な道とは?→線路が近い道、橋を通る道、  
倒壊、火災の危険性がある建物が近い道

第5時

「地震が起きたときの避難経路を考える」  
(伏山方面)

◎寺池方面での考えを踏まえて、  
個人でルートを考えます。  
班でまとめる時は、前回同様に、  
Look aroundで共有しながら  
交流します。

